

令和元年度 第2回 安曇野市協働のまちづくり推進基本方針
及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会 会議概要

1	審議会名	令和元年度第2回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会
2	日時	令和元年10月8日(金) 午後1時30分から午後3時まで
3	会場	本庁舎 3階 共用会議室305
4	出席者	磯野会長、細川副会長、中楨委員、瀧澤委員、水原委員、浅見委員、吉田委員、太澤委員、亀井委員、藤原委員、丸山委員
5	市側出席者	宮澤市民生活部長、山田地域づくり課長、青柳まちづくり推進係長、矢下まちづくり推進係主査、土屋地域おこし協力隊員
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人 記者 2人
8	会議概要作成年月日	令和元年10月18日

協 議 事 項 等

1	会議の概要
	(1) 開会
	(2) あいさつ
	(3) 報告事項
	①本年度庁内で実施されている個別協働事業について
	(4) 協議事項
	①協働計画に基づく進捗状況について
	②先進地視察研修について
	③その他
	(5) 閉会

2	会議事項概要
	(1) 開会(進行:細川副会長)
	(2) あいさつ(磯野会長)
	(3) 報告事項
	①本年度庁内で実施されている個別協働事業について
	※事務局より本年度庁内で実施されている個別協働事業について説明
	【委員】
	「資料1-2」の3ページにある「世代を超えて地域と共に歩む会」はどのような会であるのかお聞きしたい。
	【事務局】
	主に子育て支援等に携わっていた皆さんがつくった団体。市民活動サポートセンターの交流事業の中で仲間を増やして立ち上げたと聞いている。人数は5~6人で運営されている。
	【委員】
	5ページにある「安曇野市の歴史文化遺産再発見事業実行委員会」について構成がどうなっているか分かればお聞きしたい。
	【事務局】
	詳細については、これ以上のことは分からない。補助金のメニューがあり、その実施のために実行委員会を立ち上げたと思われる。

(4) 協議事項

①協働計画に基づく進捗状況について

※事務局より協働計画に基づく進捗状況について説明

【委員】

広く知らせるためにホームページはどこでも利用されるものだと思うが、市民活動サポートセンター等、それぞれのページに対してのアクセス数のデータはもっているのか。

【事務局】

広報の担当課ではもっていると思うが、私どものところでは把握していない。

【委員】

ホームページの情報は誰でも簡単に閲覧できるので軽い情報である。ホームページは便利でいいものであるが、直接何かに参加して得る情報が信頼されるものだと思う。出前講座はいいと思う。

【委員】

3ページの市民活動サポートセンター窓口とあるが、支所のほうでも可能か。

【事務局】

市民活動サポートセンターの窓口は本庁舎2階4番窓口となるが、支所も協働の推進を担っているのだから、窓口では協働に係る相談には乗るようになる。

【委員】

1ページの市民活動サポートセンター主催でNPOセミナーを3回開催されているが、参加状況とこのセミナーがどのようにその後活かしているかお聞きしたい。

【事務局】

NPOセミナーについては、今年度は全5回計画しており、ここまで3回実施している。出席者は毎回30名程度。市民活動団体の方だけでなく区の方にもお越しいただいている。今年度全区に登録してもらったこともあり昨年度と比べ多くなっている。NPOと銘打っているが、広義のNPOということで自治会も含めた内容となっている。1回目、2回目と地域の中には多くの課題があることを講座あるいは交流の機会を通じてお持ちいただいている。次にどうやってそれを解決していくかといったところで展開しており、9月に開催された第3回セミナーではワークショップを開催した。地域課題を解決するためには、区だけ取り組んでいても、市民活動団体だけで取り組んでいても、なかなか解決にいたらない。両者の協働が必要といった気づきが出席者の中にでてきているところかと思われる。今後の4回目、5回目のセミナーでは、その気づきを基にどう取り組んでいくか、そのための支援になるような内容で展開していく予定となっている。まだまだ不十分であるが、今年度、市民交流団体と自治会とのつながりができたところである。

【委員】

明科としても課題となっていて、そこをどうしていくか問題となっている。私たち組織として考えているところ。

【事務局】

5年前に第1次計画を作成するときはNPOと区は接点を持たないようにしようということだった。というのも、その当時、区では外部団体を受け入れられる柔軟性を持っていなかった。この5年間の区長会の努力により地域力を高めてきて、社会情勢の中で課題が大きくみえてくるようになった。区だけでは解決できないことから、色々な人と手をつないでいくことが必要な状況であるため、第2次としてはそこを集中してやっというところとしている。市民活動サポートセンターもそこに力をいれていきたいということで、地域づくり課に窓口をもってきた。ここには区に関する情報が入ってくるので、そ

れと上手くリンクできるよう移設させてもらっている。そんなスタートをきったところである。

【委員】

とても大切なことで、やっと進んできたと感じている。団体がどんどん出て行けたり、区が受け入れたりしてくれたらいいと思っていたので、とても素晴らしいと思う。

NPOセミナーですが、NPOをつくろうとしている人や、NPO団体を主体としたセミナーであると認識があった。今の話を聞くと名前が合わないと思った。

登録団体等の交流会の出席率が低く、これで交流会になるのかという疑問があった。地域づくり課の責任だけではなく、登録団体が意識を強く持たないといけないと思った。団体の顔が見えないところがあり、課題はすごくあると思う。

【委員】

出前講座は合併以来長くやってきて、定着したことは結構だと思うが、どういった分野が多いか教えて頂きたい。

【事務局】

市が実施する出前講座については、3～4年前は100件未満であったが、昨年が190件、一昨年は160数件ということで、このところ非常に多くなってきている。一番多いのが、危機管理課の防災関係、続いて文化課のフィルムアーカイブの上映、敬老会等の高齢者が集まる機会に流されることも多く、回想法として効果があり人気がある。それから健康、介護関係が多いところ。出前講座でアンケートをとっているが、約8割の方から非常によかったという回答をもらっている。

【委員】

センターの通信を送っていただいているが、何件くらい送っているのか。

【事務局】

サポートセンターの登録団体である約160団体に送っている。

【委員】

いい媒体となっていると思うが、登録している団体だけに出しては広まらない。前回の会議でもコンビニとかに置くのはどうかといった話があったが、広報とかを使うという方法もあるのかなと思う。広報においては、どうしてもページの制限があり、市民活動が載る余地がない。広報は発行するとお金がかかるため、回覧のような形でできないか提案したい。幅広く回してもらうことを検討してもらいたい。

【委員】

今の情報共有についてであるが、色々な団体が良い活動をしているが、市民全体に浸透されていないことをいかに浸透させるかであるかと受け止めている。もっと活用すべきところは図書館であると思う。単に本を置いているだけでなく、行政支援や社会的情報のポータル玄関口の役割を果たせるところである。ただ安曇野市の図書館はその役割は果たし得る力をもっていると思うが、もっといろんなことができるはずなのにできない状況にある。広報は必ずしも受け取りたい側が受け取りたいタイミングで受け取りたい情報を得られるわけではない。この情報がほしいとなったときに図書館に行くというような、本来図書館というパスファインダーの役割として活躍してもらってもいいと思った。

職能団体があると思うが、医師会、薬剤師会に行政の出前講座をアウトリーチしていくことで、より専門知識が市民におりてくると思う。市民活動サポートセンターにいけば手に入るのか。

【事務局】

現在のところはなっていない。

【委員】

特に薬剤師会等は県内で精力的に活動しているので、情報とかを広めていけばよいと思う。

【委員】

明科でもある会で薬剤師会、日赤の出前講座をお願いしたが、日赤は研究内容が深く納得できる中身だった。自主的にお願いする形になっているので、職能団体の情報を提供できれば良い学びができると思う。

【委員】

サポートセンター通信は登録団体だけではなく、委員にもぜひ配送をお願いしたい。

【委員】

市職員の意識の向上を図るとあるが、新人職員の研修となっているが、市のほうで協働を進める取り組みは実際進んでいるのか。協働をある課に持ちかけたところ、手がいっぱいではなかなか難しいといった回答があったということ聞いた。ベテランの職員に対しての取り組みはあるのか。

【事務局】

昨年度は係長を対象とした協働の研修を行った。一昨年度は係長の一步手前の階層に対して開催した。こういった研修だけでなく、自治基本条例、協働の計画にも盛り込まれているので、地区担当職員の制度の説明も含めて、あらゆる機会を通じ、職員に呼びかけているところ。また協働を持ちかける場合にうまく相談にのっていただけない場合はセンターを通じてお声掛けしていただければ、おつなぎさせていただく。

【委員】

私どもは区の代表としてきているが、今まで区はこちらの団体に入っていなかったが今年入ることになった。過去の経歴が分からず引継ぎがない中、区としても対応しきれない状況である。83区を集めた中で説明をしてもらいたい。

【事務局】

区長会では、昨年度1月に「地域を考える研究集会」で区だけでは解決できない課題については市民活動団体とつながること、協働することが大事であると確認をしたところである。その中から「市民活動サポートセンターの中に区長会として83区が加入しましょう」ということになり加入してもらった。

【委員】

2年目の区長は知っているが、切り替えた後のフォローの説明がない。交代している区長に説明がないから、こういったセミナーに参加しなくなる。切り替えた時は切り替えたなりの説明がなくてはつながらない。

【事務局】

各区が市民活動サポートセンターに登録したこと、協働を大事に進めていることは、今年4月の区長会の資料の中に加えさせていただき、説明を行った。時間の都合上、十分な説明ができなかったと反省している。

【委員】

やはり丁寧な説明が必要だと思う。区長会はあまりにも資料が多すぎて理解するのは無理であると思う。ここに周知するようなことを発信していく必要がある。区の仕事だけで手いっぱいであるため、皆さんの団体に入るのは大変である。またNPOセミナーの名前を変えていただいて、みんなが自由に参加できるようなセミナーが必要であると思う。区民ができて、このようなことをやっていることを知ってもらうことが大事。地域には良い団体があるので、その方たちも集めたセミナーや会合をやってもらいたいと思う。

【委員】

区が一斉に入ったということであるが、市民活動というのは任意で参加するという大前提がないと上手くいかないと思う。そういった意見があるということは事務局で受け止めてほしいと思う。事務局の説明では、区がしっかりしてからコラボを考えたところがあるが、区長が半分代わる中、今までの区長の仕事にこういった会議があると、無理もあるし、成り手がなくなる。しっかりとした引継ぎがあり理解があればいいが、理解がない形で入ると問題があると思う。事務局も気を付けたり、より親切な説明で理解してもらうことが大事。また、区長会というのは市と区は対等のパートナーであるので、区長会の前任者が決めたけど、今の区長で変える自由がある。ぜひ事務局とは別に区長の中で考えていただければという印象を受けた。

【委員】

3 ページ目のところで、空欄の部分があるが、協働していく中で取り組みがないのは寂しい。できれば企業が行う公益事業というのがあるが、どこまでの範疇であるのかが分かりづらい。例えば商工会と市と協働しているイベントがあるし、企業独自で行っている祭りみたいなものがある。どこまでを受け皿として受けることができるのか書いていただければと思う。

【事務局】

今までなかなかそういったお話ができなかった。公益活動が前提になるが、地域の皆さんを巻き込んだ催しもの、事業もやっておられるので、情報をお互いで交換できるような仕組みを研究してまいりたい。

【委員】

ここには市商工会などがあるが、例えばろうきん、信金がNPOへの補助事業の助成をしていることが知られていなかったり、あるいはスーパー等がポイント制で地域貢献事業に対して買い物に応じて交付している等やっているが知られていない。そういうことは、小さい商店でも貢献できる。企業の地域貢献は大きい目玉になっている。あるいは銀行員が年に1、2回山に行って間伐をする動きが全国ででている。今まで商工会が実行委員会をつくったから協働している部分をもう一步深めたアクションとして、地域住民の意向を一緒になってできるようなつながりをもってほしい。それはやっぱり、市民活動と商工会の役員が交流する中ででてくる話であるので、ぜひそんな機会をつくることから始めてほしい。

教育委員会と連携が相対的に弱いと思う。公民館という活動は生きがいに通じた推進力となる。区長会はある意味役務であるが、公民館はもっと自由にやりたいことができる組織である。このあたりと連携を図ることで自らの生きがいとして公民館活動が住民に浸透していけば、湧き上がっていくものがある。そういった意味で生涯学習との組織の中での連携を強化していただきたい。

人材バンクをやるとあるが、今年の中で地道に人材リーダーの発掘、育成して活躍の場を設けることに重点を置いてもらいたい。できるところから取り組んでいただきたい。

【委員】

松本市は公民館活動の理念の中に、地域づくりの要となっていかなければならないと謳っている。生涯学習に加えて地域課題に目を向けていくことが、今後求められると思う。明科は3～4年前から公民館主催で地域の役員の方との学習会をやっている。他の4地区がどのようになっているのか。今後このようなことを位置づけていくことが重要であると思う。

【委員】

どのような役員を呼んでいるのか。

【委員】

公民館主催の研修をやっているが、出席者は公民館長、主事、常会長、区長、NPO団体の皆さんをお呼びして、講師を招いて毎年やっている。狭い目線ではなくて、広い目線で活動できる。

【委員】

公民館は教育委員会、地域づくりは市長部局、社協は社協と縦割りとなっている。すごい勢いで議論ができたのは、地域で一緒になったから素晴らしい絵が描けた。事務局へのお願いです。社協とボランティア団体の連携がうまく進んできているが、生涯学習は遠い。地域としての公民館活動と自治会と社協が一体となって住民のほうで話がうまくまれば、行政のほうで連携して、両方がないといけない。大変であると思うが、地域に入っていく仕組みを役所の体制としてとっていただきたい。

【事務局】

浅見委員が「いいまちつくろう会」を立ちあげた時、公民館で地域の課題を学習しながら、市民と行政が協働しながら解決していく団体の基礎づくりをされた。先進的な取り組みで、今も継続されている団体である。市の区長会も既に公民館を巻き込んだ地域づくりを平成26年度から区のマニュアルに置いてアプローチしてきた。なかなか市役所の内部の体制で難しい部分もあるが、少なからず、地域の抱えている課題は地域において学習して課題解決を実施していこうといった流れはつくっている。教育委員会に呼びかけながら、進めてまいりたい。

【委員】

公民館、区、社協の公なものがミックスされて、いい地域づくりができればというのは組織の話であるが、「自覚者こそが先駆者だ」という言葉がある。自覚してしまっただけで課題に気付いてしまった人がそれを発信できる場が、もしかしたら市民活動サポートセンターの集まりになりうると考えた。組織としてまちづくりをしていく前の、場面情報の段階で、日々住民の生の声に気付いた個人が発信できる場としてNPOセミナーが活用できないのかなと思った。個人でも地域の課題、強みに気付いた人たちも発信できる場として、門戸を広げてもらえば良いと思った。

【委員】

私の区では、区民から課題が聞こえてこない。問題意識を持つ人がいない。区としてどのような活動をしていくかという部分に結びつけようがない。30の事業で区にどのように展開されていくかという切り口でみると、暮らし、地域にどのような意義があるのか分からない。自分たちがこういうことやりたいということで飛び込める場所があることはいいと思うが、提供されていても飛び込んでいけないのが実態だと思う。ためになることがあるのかということで判断してしまう。

【委員】

真々部区では行事への参加はどうか。

【委員】

企画しても、役員だけである傾向が強い。40年間続けていた運動会があったが、一昨年解散した。時代によってニーズが変わってくる。企画者たちが押し付ける活動というのが分かった。時代、ニーズに沿った舵取りをしていかないと有効な効果が得られない。区民のニーズをくみ取れる組織をつくろうとしている。公民館も独自に活動を企画するが参加者が少ない。原点に戻って区民の要望を吸いあげられる組織づくりが必要だと思っている。明科では公民館中心でいろいろと行っているとおしゃっていたが、向上したと感じる部分はあるか。

【委員】

ネットワークが強くなった。地域で困っていることを一緒に解決するという話があがるようになった。またがって同様に困っていることを自分の区だけでなく、他の区を巻き込んでやることは、ようやく明科区長会の中ではできるようになった。

②先進地視察研修について

事務局より先進地視察研修について説明

【委員】

同じような視察内容になると思うので、自分たちがどのくらい吸収できるかとなると、研修の時間が長くほしいと思う。長野市でよいと思う。

【委員】

長野市がいいと思う。この商業施設が閑散している中、栄えるところは栄える中、地域の活力がどのように動いているのか、その中でデパートをどのように活用しているのか。更北公民館が関わっているという点では、シニア世代の地域での活動をどう広げていくのかヒントを得られる。

【事務局】

視察先が決定した後、決定した視察先と調整を図ることになる。まだ受け入れが可能かどうか確認はとれていない。

※視察先は長野市に決定

③その他

- ・安曇野市自治基本条例の検証の意見提出のお願い
- ・環境フェアの開催の紹介
- ・国際DAYのスピーチ大会の紹介

(5) 閉会【細川副会長】